

「地域みらい留学365」の導入について、南日本新聞に掲載されましたので紹介します。

さつま町は、地元の薩摩中央高校が県外の高校2年生を1年間受け入れる「地域みらい留学365」を来年度から導入すると7日発表した。定員割れが続く高校の活性化が狙い。国の支援事業に県内で初めて採択された。

## 「1年留学」県内初導入

本年度の新生徒は定員160人に対して56人だった。町は本年度、国の補助金約500万円を活用し、留学生用の教育カリキュラムづくりやパンフレット作成を進める。初年度は生徒2人を募集する。関連予算を10日開会の町議会6月定例会に提案する。企画政策課は「高校

## 薩摩中央高、来年度から

の魅力向上につなげ地元中学からの進学率も高めていきたい」としている。同じ高校に3年間通う「地域みらい留学」制度は2018年に創設され、県内では南大隅(南大隅町)、屋久島(屋久島町)、古仁屋(瀬戸内町)の3校が導入。1年間のプログラムは2020年度から始まった。

(右田雄二)